

特集1

企業のITコーディネータ活用

～ITCって企業内でどう使う?～

1

ITコーディネータは、経営とITの橋渡しをする社内の「コーディネーター」に似ている

—アルファテックス株式会社(東京都品川区)—

資格の取得のために
社員を手厚くサポート

アルファテックス株式会社は、システム開発の会社として1988年に設立。現在は従業員130名(2021年6月現在)を誇る中堅IT企業に成長している。

創立当時は顧客の経営に貢献できるようなソフトウェアの開発を行っていたが、その後、システムの運用・保守、ヘルプデスクという事業も展開。また、経理周辺業務のアウトソーシング事業もスタートさせた。

さらに、開発・運用・保守、そしてアウトソーシングの手段を組み合わせ、問題や課題を解決する事業を2018年にスタート。一般的にはコンサルティングと言っている業務であるが、アルファテックスはこれを「コーディネート」と呼んでいる。そして、コーディネートの業務に当たり、中・長期的な視点を持ち、顧客の経営とITの橋渡し、現在と将来を橋渡しす

る職として「コーディネーター」という役職も新設した。

アルファテックスでは、人材育成への投資は創業当初から行っていて、特に公的な資格の取得支援には力を入れている。役付きの職になるにはITパスポートと簿記3級の取得は必須。また、PMPやITコーディネータなど、これから会社が目指していくのに効果的な資格や、戦略的に必要な資格についても取得を促している。

これらの資格の取得には、費用の負担だけでなく、勤務時間内に勉強できるなど、社員を手厚くサポートしている。

試験的に4名が受験
高評価を得て取得制度を新設

アルファテックスの石川春社長がITコーディネータを知ったのは、2019年秋に開催された「日経クロステック」のイベントでのこと。ITコーディネータ協会が出展したブースに寄ったのが最初になる。

「ブースで話を聞くと、弊社が目指している経営とITの橋渡しをするコーディネーターと一緒に感じました。そして、たまたま名前は一緒ですが、何か縁みたいなものも感じたのです。そして、この資格があれば、社内のコーディネーターがさらに強化できるのではないかと思います」

資格の中には、ビジネスの現場ではなかなか使えなかったり、取得したら終わりだったりするものもある。しかし、ITコーディネータは更新制で、しかも活動をしっかりと行っていないと更新できないということを知り、「中身が伴った資格」だと石川社長は感じた。

後日、アルファテックスを訪問したITコーディネータ協会の職員から、詳しい話を聞いた。

そして、2020年の1月に、まずは試験的に社内から4名を選抜してケース研修を受けることにした。その中には石川社長も含まれていて、他はPMPの有資格者、コーディネーターを束ねる組織長、そして若手社員と

いう内訳になっている。試験は一発で合格し、社内一気に4人のITコーディネータが誕生することになった。

そして、この受験した4人がさまざまな観点からITコーディネータの資格を評価し、その結果、社内に資格取得制度を設けることになった。

評価されたポイントは大きく2つあると石川社長は言う。

「1つはケース研修の素晴らしさです。当社がこれまでやってきたことは、まさにITコーディネータと同じではないかと、このケース研修で肌で感じました。しかも、身に付けるスキルも整理されていて、体系的に学ぶことができました。そして、この資格は経験のない若手よりも、ベテランのほうが特に有効ではないかとも感じました。

もう1つは、他社の方との交流ができた点。いろいろな企業のさまざまな考え方を知ることができ、気づきも多くありました」

アルファテックスでは、2年目は本格的にITコーディネータの資格取得制度をスタートさせ、5名が受験した。5名はベテラン社員だったが、いずれもITコーディネータの資格には高い評価をしていて、担当しているプロジェクトで学んだことは生かせようという声も上がった。

今年度も4、5名が受験する予定だという。

顧客満足度という観点で
プロジェクトを見られる

アルファテックスに在籍しているITコーディネータの声も聞いてみた。

コーポレート本部の湯本岳彦氏は、現在、3年前に社内でも立ち上げたPMOで、システム開発全般のQCDを一手に管理する業務を行っている。

「元々、ITコーディネータの資格には興味がありました。私はPMPの資格を持っていますが、これはベンダーサイドの資格です。ITコーディネータはベンダーとユーザーの間に立つよ

うな資格だと思ったので、自分の幅を広げるためにはいい機会だと思い受けてみようと思いました」

そして、ITコーディネータが生きそうな場面としては以下のように語っている。

「プロジェクトのレビューをする場面、特に受注前の判定会などで生かせそうです。以前の観点はプロジェクトをいかにリスクから守るか、QCDをいかにうまく保つかという、守りがちなものになっていました。それが、取得後は、お客様がどのように見ているかという、満足度を考えに入れるようになったのです。プロジェクトマネジメントだけの知識では、その考え方は出てきません。顧客満足度という観点でプロジェクトを見られるようになったのは、とても大きなことです」

サービス推進本部の戸川秀雄氏は、クライアントである大手企業の業務改革の支援を担当。ITコーディネータの資格は2021年1月に取得した。

「私が行っている仕事は、実際にはITコーディネータに近い業務だったので、社内で資格取得の制度が始まったのを知り、すぐに立候補しました。この資格は、業務で何かうまくいかなかったときに、ガイドラインや押さえておきたいポイントなど、体系的に学んだ知識が生きておきました」

そして、後輩たちにもITコーディネータの資格を勧めたいと言う。

「プロジェクトには多くの後輩がいますが、お客様に言われたことを素直にやる、信じるということが頭に最初から入っていて、お客様の課題の解決のために重要なことの分析ができないのです。言われたことの裏に何かがあるのか、真に解決を目指すべき姿はどのようなものなのか。それをしっかりと頭に入れて動かなければいけない。ITコーディネータはそれができるので、ぜひ後輩にも資格取得



は勧めたいです。どんどん取ってほしいと思います」

そして、両氏とも、今後は社内のITコーディネータ同士の情報交換や勉強会が必要になると感じている。また、他社のITコーディネータの方とも交流を図りたいと言う。

スキルや知識を活用し
さらに顧客に寄り添えるように

最後に、石川社長にITコーディネータに期待することを聞いてみた。

「弊社はお客様に寄り添うことを大切にしているのですが、一方で寄り添い過ぎて“同化”してしまうこともあります。自分の役割、ポジションを忘れてしまうことがあるのです。その結果、トラブルになることもあります」

ITコーディネータの資格を取得すると、お客様から求められる役割を、学んだ知識と照らし合わせるができる。そんな拠りどころとなる場所ができたのです。ITコーディネータのスキルや知識をうまく活用し、さらにお客様に寄り添えるようになってほしいです。

また、ITコーディネータのネットワークを生かし、社外での人的な交流も拡充してほしいです。そこで得たものは必ず弊社の業務にも役に立つと信じています」

企業概要

アルファテックス株式会社
事業内容:各種システム開発、IT活用支援/情報システム業務/システム運用・保守、業務分析・改善・コンサル/各種業務アウトソーシングなど
東京都品川区西五反田8-1-5 五反田光和ビル
<https://www.alfa-teccs.co.jp/>



石川 春氏
ITコーディネータ 代表取締役社長



湯本 岳彦氏
ITコーディネータ コーポレート本部
スペシャリスト



戸川 秀雄氏
ITコーディネータ サービス推進本部
ソリューショングループ コーディネーター